



工事中の羽田第4滑走路と右翼のピラ(左)

「国家公安委員長」の裏金疑惑 1000万円渡した!

私は林幹雄に1000万円渡した!

告発された



福田首相辞任表明の当日はお供

【特集】

防災の日の9月1日、福田首相と揃いの防災服を着ていたのが林幹雄国家公安委員長(61)である。防災担当の内閣府特命担当相でもあり、首相のお供だった。福田首相の突然の辞任表明で、太田誠一農水相の事務所費問題(秘書宅に計上)など吹っ飛んだが、初入閣から2カ月足らずでクビになるのが決まった林国家公安委員長にも、疑惑の目が差し向けられている。

「私たちは、林代議士と公設秘書の相模明(仮名)に裏金を渡していたのです」と告発の声を上げたのは千葉市にある建設会社の取締役(62)。仮に名前を鈴木和夫氏としておこう。「羽田空港の第4滑走路の埋め立てに、スラグ(銑鉄製造の際に発生する産業廃棄物)を納入する仕事で手数料を得るため、林代議士と相模秘書に営業をかけていました。スラグ1トにつき1000円の手数料。数十万立米を納入できれば数億円の利益になる。最初は、そんなうまい話があるかって疑っていたんですが、営業

で勝負をかけるうち、本当に仕事が取れると思いついてしまったのです」林国家公安委員長は、衆議院千葉10区選出。平成5年に、宮沢改造内閣で環境庁長官を務めた父親の林大幹氏の地盤を引き継いで初当選。運輸政務次官や国土交通副大臣を歴任。林代議士と鈴木取締役が知り合ったのは平成17年春のこと。「ウチの会社は社員7人の零細建設業者で、JR東日本の子孫請け工事をしていました。事業を少しでも大きくしたいという社長が、占いの師の細木数子の弟に、千葉の大物フィクサーだった鴨野静郎会長を紹介されたのが始まりでした」

「鵜野会長に社長が面会するとき、700万円用意しろ、と言われました」その鴨野氏から紹介されたのが、林代議士だった。「5月9日、私と社長、仲間の建設業者、スラグを扱う業者の4人で、国会の議

に呼び出されたこともあり、飲みに行くのは赤坂のクラブです。座っただけで1人2万円から3万円はする店でした。有名な五月みどりの妹の店にも連れて行かれましたね」時には、相模秘書が千葉

「金権千葉」を髣髴

代議士との3回目の会食は、ステーキ店だった。「メンバーは若干変わりましたが、私と業者仲間2人と相模秘書です。例によって林代議士は遅れて到着しました。林代議士が帰る前、主賓(金を渡す役目)の業者

に出向いてきたことも。「鰻屋で食事をして、県庁近くで飲み歩きました。ゼネコンやその下請け企業などへの働きかけでお金が必要だったようなので、会うたびに10万円、20万円と渡したのです」

が、1000万円ぐらいかな」と聞くので、「いや片手(50万円)でいいでしょう」と言いました。玄関先で渡したと思います」代議士にはそう会えるものではないから、相模秘書に裏金を貢ぎ続けた。「違法との認識はありません。でも相模秘書が営業をやってくれていると思うと、渡さないわけにはいかない。会社の資金繰りは苦しかったのですが、社長も私も借金をして裏金を作り

員会館にある林代議士の事務所を訪れたのです」その夜、鈴木取締役らは赤坂で林代議士を接待した。「赤坂の高級料亭を、相模秘書が予約してくれたので。相模秘書と私たち4人が先に行き、30分ほど遅れて林代議士が来ました。食べたのはフグのコース料理。私たちは、先生、羽田沖の仕事、お願いします」と頭を下げました。林代議士は、「分かっていきます。相模が窓口ですから、相模に任せています」と言いました。林代議士が先に帰るといいうので、社長が玄関先で白い封筒に入れた50万円を渡したのです」料亭での飲食費49万円は業者側が負担。同じビルの別の店で、社長、鈴木取締役、相模秘書の3人が2次会を楽しんだ。

福田首相の急な辞任表明で、農水相の事務所費問題はウヤムヤになってしまったが、今度には全国の警察を統括する国家公安委員長の裏金疑惑が飛び出した。羽田空港新滑走路の工事参入を図った建設業者が告発する。「私は林幹雄代議士に1000万円渡した」と――。

秘書には会社が倒産するかもしれないと伝えました。彼と話し合って、仲間の業者を窓口にすることに決めました。が、実際に銀行取引停止になると、こんなバカなことやっていると、倒産したんだ、と会社の連中からは恨まれました」それでも仲介者の鴨野氏が存命中は、林代議士側も気がかけていたようだが、「会長が亡くなると、相模秘書が、話はなかったことに、と言いだしたのです」

そして、トラブルは、右翼団体「大行社」千葉連合本部の知るところとなった。「昨年末から、今年年明けにかけてピラが3回ばら撒かれました。料亭の飲食費や代議士への車代など具体的金額を記し、代議士の鍊金術を暴く、などと非難しています(公安関係者)」昔の「金権千葉」を髣髴させるような話だが、林国家公安委員長に裏金疑惑について尋ねると、「事実無根です。よくご理解下さい」相模秘書が補足する。「その方たちとは確かに面

「店内にはカラオケのセットがあり、相模秘書の独壇場でした。2次会が終わって、相模秘書がタクシに乗る間に、封筒に入った20万円を渡しました」鈴木取締役らと林代議士との2回目の会食は、それからおよそ1カ月後。「同じ料亭で、このときも林代議士は途中から来ましたが。私たちは、おかげさまで営業もうまくいっています」と報告しますと、代議士は、「ちゃんと行ってあるから大丈夫だろう」と余裕の表情です。代議士の帰り際、前回と同じように50万円を渡したのです。馴れた手つきで背広の内ポケットにスッと入れました」相模秘書は打ち合わせと称し、鈴木取締役らと頻りに会うようになる。「夜の9時に、電話で東京

識がありますが、法的に許される範囲でのお付き合いです。代議士の政治活動を良識的に支えていただけるといふことでしたので、何度か食事をしたことはあります。(裏金は)全くの作り話ではないでしょうか。ピラの件は千葉県警にも話してあるし、私どもは反社会的な圧力組織には、決して屈することはありません」とはいえ事実無根ならば、なぜ毅然たる措置をとらなかったのか。

再び鈴木取締役の話。「林代議士に、現金だけで1000万円弱は渡しています。大半は相模秘書が受け取りました。飲食や他の仲介者への紹介料を合わせたら4000万円、5000万円は使っています。我々にとつては小さい金額ではありません。自爆覚悟で裁判を起こそうかとも考えているんです。裏金や接待の実態は、帳簿や領収書を出せば分かりますからね」任期がわずかとなった国家公安委員長だが、この蠅螂の斧をかわして身の潔白を証明できるだろうか。

林代議士に金を注ぎ込んだのが原因となって、急速に経営が悪化する。「平成17年のお盆前、相模

「その方たちとは確かに面